

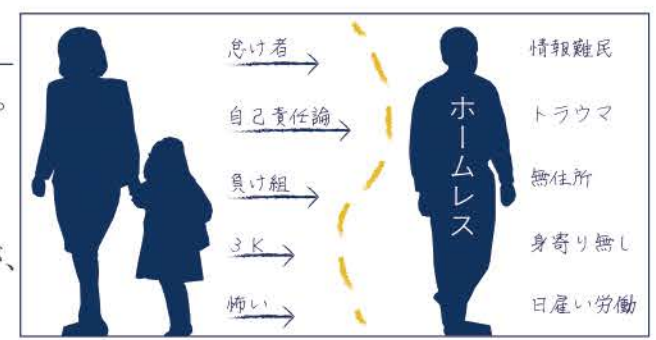


この建築は、ホームレスにとっては新たな居住空間として、一般市民にとっては娯楽・商業施設、PublicSpaceとして機能する。

はじめに、

a. ホームレスの定義
 都市公園、河川、道路、駅舎、その他の施設を起居の主要な場所として日常生活を営んでいる者。
 なお、本提案では、ネットカフェや簡易宿泊所等を起居の主要な場所とし、住所を持たない者も広義のホームレスとして定義することとする。

b. ホームレスと一般市民の境界の問題
 ホームレスと一般市民の間には見える、あるいは、見えない境界がある。この境界は、様々な解決策を進めるうえで障壁として機能してしまう。この障壁は、彼らの社会復帰を更に困難なものとしてしまっている。物理的に臭い・汚い・金がない(3K)という問題から生じる境界もあるが、やっかいなのは偏見や誤解から生じる精神的な面での境界である。



1. 問題提起.

- 路上の傍らに座り込む彼を助けることはできないのだろうか？
- 自己責任論のひとつで片付けられてしまう存在なのだろうか？
- 人としての最低限の生活をおくる権利すら無いのだろうか？
- 彼らの為の建築はいかに存在しうるのだろうか？

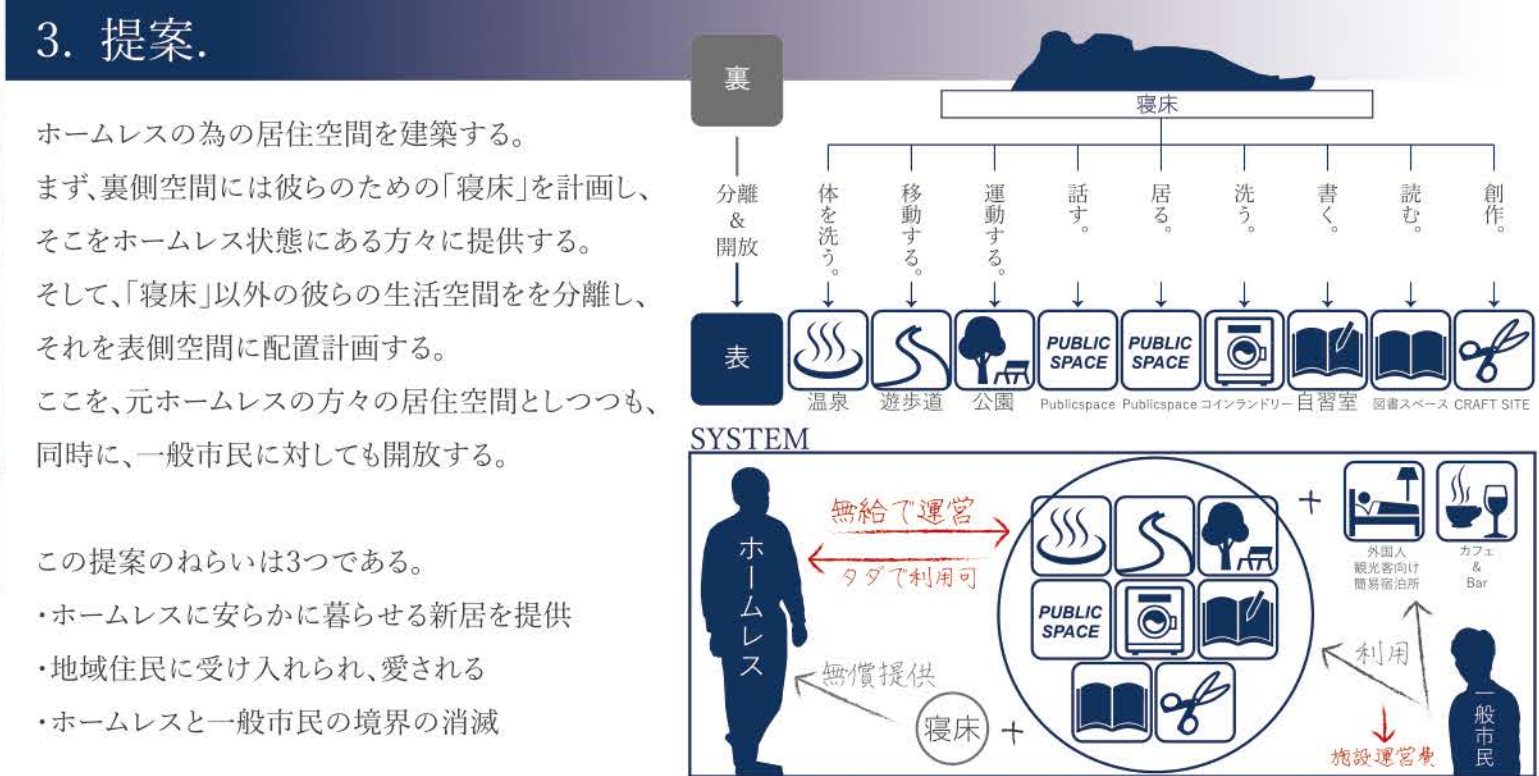
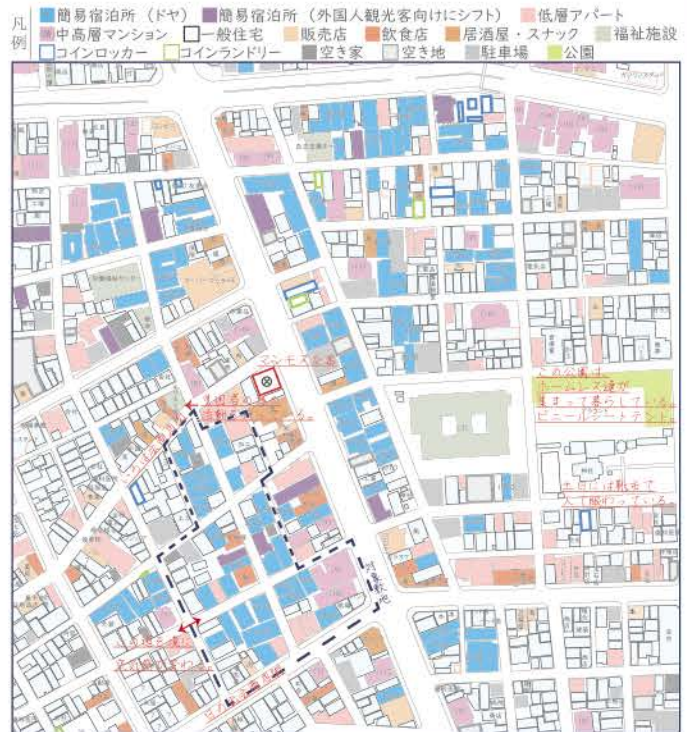
3. 敷地について.

対象地域
 元山谷地区
 (現在の東京都台東区清川・日本提・東浅草付近)

対象地域の選定理由

- ホームレスに対して「懐の深い街」という特性がある。
- 元山谷地区は現在過渡期にある。

敷地決定の為の現状調査MAP

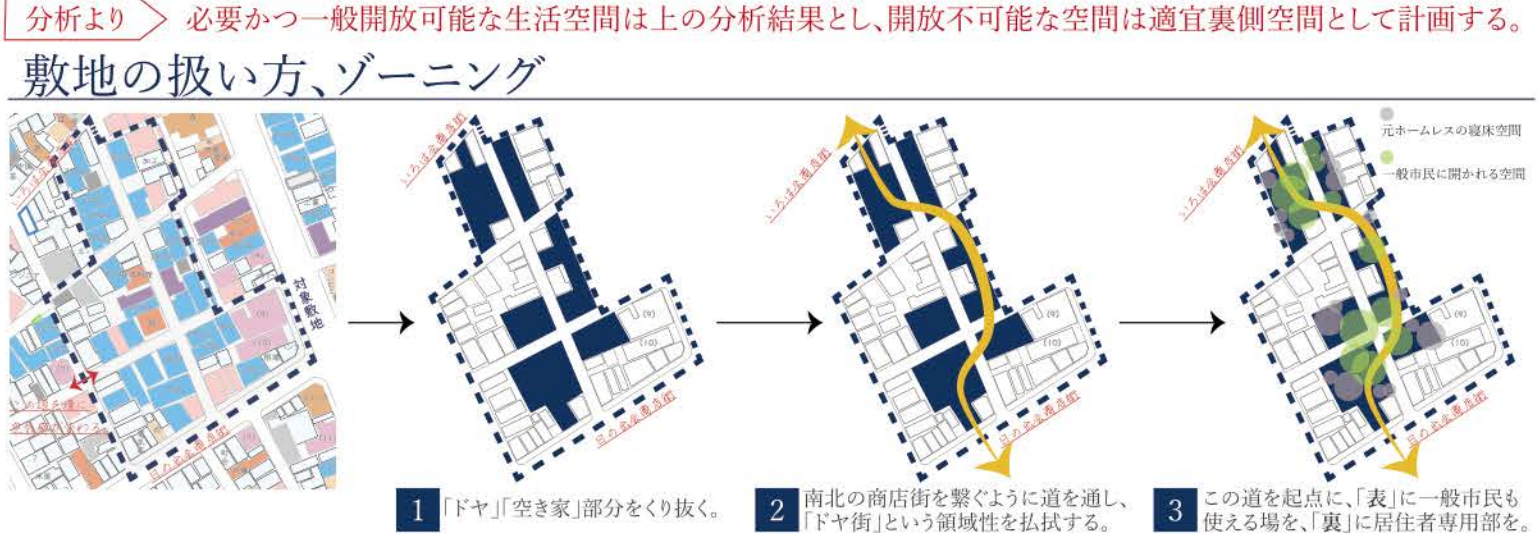


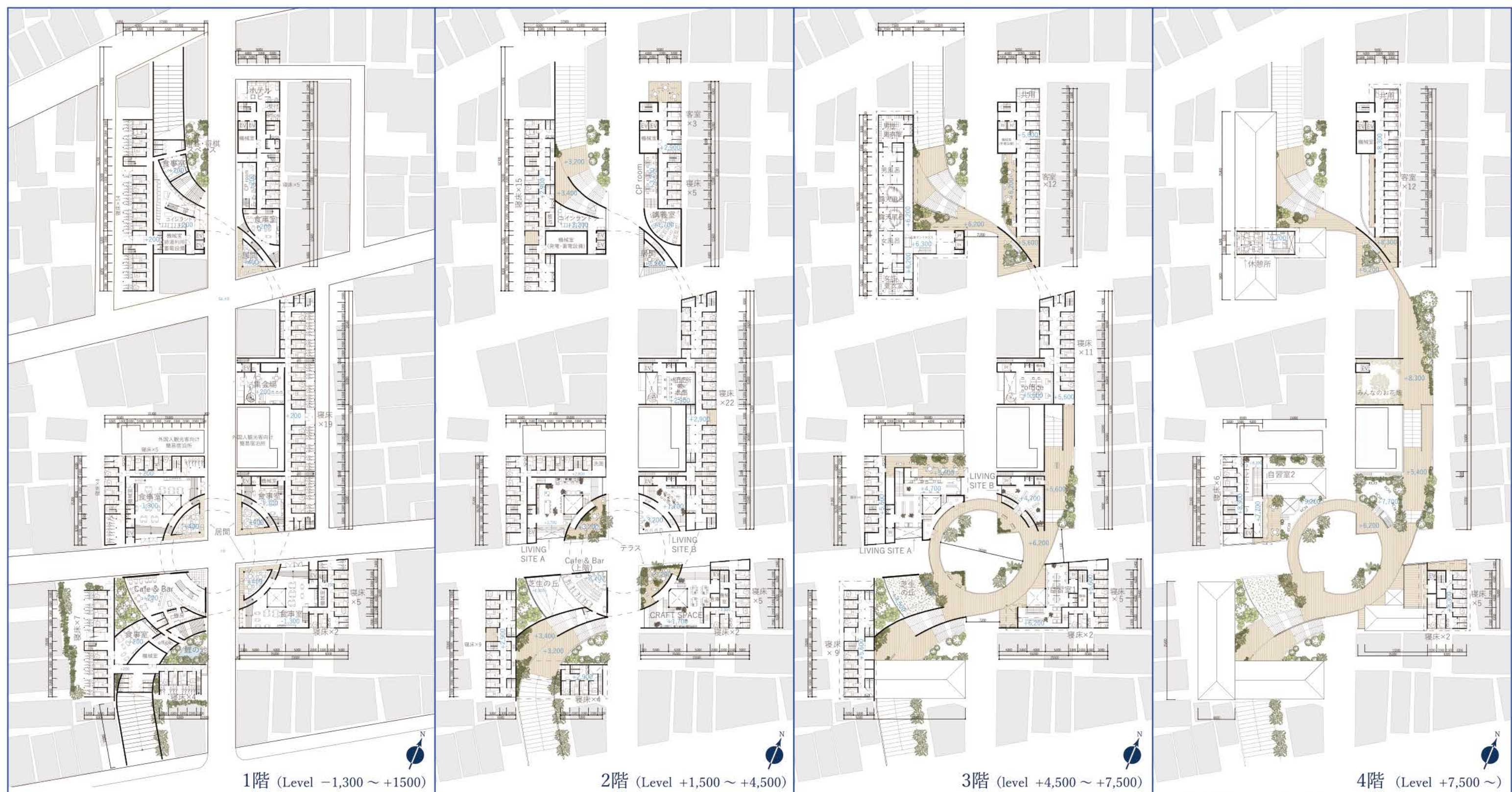
4. 設計.

必要空間の分析

まず、一般的な独り暮らしの住まいを参照する。
 次に、それを機能空間ごとに分解し、そこで行われる行為に着目する。
 分解された空間を、地域に散在する施設を参考に交換してゆく。
 変換作業より、必要と考えられる施設をこの建築の構成要素とする。

各空間要素	緑側、庭	居間-机	居間-TV	自習空間	寝床空間	書庫空間	収納空間	洗濯空間	排泄空間	調理空間	移動空間	調理空間	浴室空間	貯蔵空間	入口空間			
行為	服外に平出す	家庭菜園	読書する	勉強する	手仕事を調べる	寝る	本を貯める	物を貯める	衣類を洗う	排泄する	軽食を作る	湯を沸かす	移動する	食事を作る	歯を磨く	体を洗う	保存する	靴を脱ぐ
変換	公園	自習室	パブリックスペース	CRAFT SITE	PC ROOM	図書スペース	コインランドリー	遊歩道	遊歩道	温泉	居住者専用空間							





※ 黒字→室名 青字→床レベル(前面道路 GL±0を基準) 各階平面図 縮尺：1/800

